

加古川南高校 平成30年度1学期始業式 学校長訓話 2018年4月9日(月)

おはようございます。

今日は読解力がいかに大切かについて、お話をします。

「AI vs. 教科書が読めない子どもたち」という書籍が教育分野のベストセラーになっています。

AI が急速に進歩しているのは皆さんも、自宅でスピーカーに話しかけている人もいるでしょう。スマホの Siri や Google アシスタントを私も日常的に使いますがこのようなものが発達することの便利さと空恐ろしさを感じるのは私だけではないでしょう。

先ほど紹介した書籍は AI (人工知能) とはどのようなものか、そして人工知能がどのように我々の社会を変えて行くかを論じています。そして今後、人の仕事の内、AI によって取って代わられるもの、逆に人間しかできないものは何かを説明しています。つまり AI の登場によって、人間とは何か、が明らかにされるわけです。

著者は国立情報学研究所の新井紀子教授です。新井さんは、人工知能 (AI) でできたロボットが東大に入学できるか、という「東ロボくん」プロジェクトで知られる数学者です。このプロジェクトは終了し、東大合格はできませんでしたが関関同立と呼ばれる関西の難関大学の一部の学科に合格率80%を達成するまでになりました。今後、AI に多くの仕事が取って代わられることが予想されますが、そういう社会にあって人が活躍の場を確保し、より幸せに生きられるためのスキルとして、新井先生は「読解力」に注目しています。

なぜ読解力なのかというと、AI は読解力が一番苦手なのです。「えっ？」と思う人がいるでしょう。スマホで siri と会話できるではないかと。siri に話しかけます。「明日の天気は?」「JR 加古川駅の時刻表は?」確かにこれについてはほぼ期待した通りに回答してきます。しかし、少し複雑な問いかけをするとトンチンカンな答えを返します。皆さんも経験があると思いますが、現在のレベルでは複雑な問いについてはまだまだ使い物にならないレベルです。そして、今後も技術的に将棋や囲碁のようなゲームでは人間に勝てても複雑な文

章を読んで意味を理解するための技術的な壁は越えられそうにはない、とのことです。少しほっとしますね。

何故なのかと不思議でしたが、現在の AI は人間の問いかけの意味を理解しているにではなく、問いかけのパターンを数千万、数億それ以上記憶させ、統計的な処理をして反応させているだけなのです。だから出力する場合、こちらの意図を理解して回答しているように見せているだけで AI は人間の意図するところや意味を汲み取っているわけではないのです。つまり AI は意味づけることができないのです。

例えば、皆さんが友人から、少し長い手紙をもらったとしましょう。なんとなく近況が書かれているけれども、何か寂しそうだと感じる。文言にはそんなことは書いていない。でもなぜかそう感じる。そんなとき、皆さんは「元気ですか」と連絡を取ったりしますよね。このようなことが AI はできないのです。

これから必要とされる力とはなんでしょうか。私たちは日々、大量の会話や言語に触れています。それらを瞬時に読み解き、意味付けています。特に2、3年次の皆さんは課題研究に取り組まれています。自分自身に問いを立て、関連書籍を読み込み、現場に赴き、人の話を聞いたり実地調査をしたりします。全く AI では歯が立たない領域です。頑張ってください。また、人として相手を思いやるなど生身の人間としての心の動きが伴うことがあるのでしょうか。文化祭でクラスがまとまらない。どうしよう。励ましたり、励まされたり。…

キーワードは読解力です。大学進学でいまはまだまだ学力がついていないと不安がいっぱいの3年次生もいるでしょう。進研模試が終わった後、問題解説冊子が配られます。あの冊子を読み込める人は現在、点数がでていなくても、これから学力が伸びる可能性は高いです。そうです、読解力があるからです。

新学期が始まり、新しいクラスでの授業や学校行事、部活動もあります。心と体、頭脳をフル回転にして4月の風を上手につかんで良いスタートを切ってください。